

農業振興基本条例制定を

できる限り早く 制定したい



畑山 親弘
(市政・社民クラブ)

議員 市長は十和田産品の販路拡大、ブランド化、加工品開発など六次化に積極的に取り組んでいる。一方、たびたび変わる国の農業政策に農家は振り回されている。このことから、農家が自信を持って取り組めるよう、農業振興基本条例を制定する考えはないか。

市長 農家、行政、消

費者それぞれの役割を理念として盛り込み、関係者が十和田市農業の発展のために頑張れるよう、できる限り早く条例を制定したいと考えています。制定の際は、TPP問題等の状況を見ながら、関係団体とさまざまな協議をする必要があると考えています。



条例により、農業の発展を

議員 市民は県立施設の設定を望んでおり、県に対し、早い時期に積極的な要望をするべきでは。企画財政部長 現在、要望する施設について庁内で検討しており、さまざまな提案があります。また、十和田商工会議所からは、中心市街地に高層

社会にも対応した多目的室内スポーツ施設の設置要望があります。今後は市民等から広く意見を伺い、要望する施設を具体化させたいと考えています。

議員 現在の食肉センターは設置から約四十四年経過し、施設の老朽化が著しく、耐震上も含め限界に近い状態である。今後の運営についての考え方は。

農林部長 大手食肉加工業者から処理頭数の拡大や高度な衛生管理に対応した施設の整備が要望されましたが、十和田地区食肉処理事務組合及び構成する市町村で検討した結果、事務組合としての整備は断念し、民間事業者に委ねることで一致しました。昨年四月には、大手食肉加工業者に対し、食肉センター及び畜生産農場の当地域への立地について要望しており、今後も引き続き粘り強く立地を要望していきたいと考えています。



桜田 博幸
(明政一心会)

議員 当市の防風林は、夏は太平洋から湿気を多く含んだ冷たい風やませ、冬は八甲田山から乾燥した冷たい風八甲田おろしを防ぐために、先人の知恵と努力によって造成された歴史がある。しかし発展を遂げた現在、住宅技術の発達などにより生活環境が大きく変化し、その役割も変わってきている。保全地区(防風林)の整備について、第一次十和田市総合計画における、第一期実施計画の実施状況は。

市長 第一次十和田市総合計画において、防風林の樹種がえを計画的に進めるとともに、防風、防雪、防火だけでなく、地域の広場や災害時のオープンスペースなど、多様な機能を持つ緑の空間整備を計画しました。第一期実施計画では杉の

杉防風林の整備方針は

樹種がえや伐採を進める

約七割を伐採し、新たに広葉樹を植栽する樹種がえを進め、全十二カ所の整備を終了しました。



保全地区の適正な管理を

の整備、稲生川と官庁街を結ぶ緑の遊歩道整備などを計画しており、平成二十五年度は、ウッドチップを活用した遊歩道の整備を二カ所予定しています。

議員 伐採されず残っている杉により、花粉アレルギーなどの健康被害、枝葉の落下などによる騒音被害や住宅雨どいの詰まり、日当たりが悪く、路面が凍結することによる転倒事故などが発生しているが、その対応は。

議員 第二期実施計画の実施状況は。
市長 この計画では、保全地区を地域住民団体の美化活動に提供することとし、現在四カ所で花壇として利用されています。今後は地域活動や災害時のオープンスペース

市長 市民生活に負担をかけていることから、適正な維持管理を行うため、市民アンケートや意見交換会、隣接町内会などの意見を伺い、緑の維持管理計画の策定を進めています。